

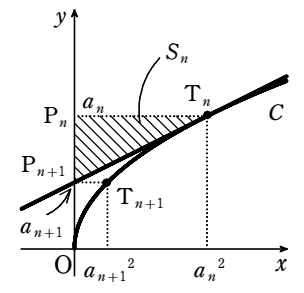
接線と法線～不等式への応用までの答え

① 接点の座標を $(t, t+e^t)$ とおく。
 $y' = 1 + e^x$ であるから、点 $(t, t+e^t)$ における接線の方程式は
 $y - (t+e^t) = (1+e^t)(x-t)$
 これが原点を通るから $-(t+e^t) = -t(1+e^t)$
 すなわち $(t-1)e^t = 0$ $e^t \neq 0$ であるから $t=1$
 よって、求める接点の座標は $(1, 1+e)$

② (1) $y = \sqrt{x}$ から $y' = \frac{1}{2\sqrt{x}}$
 T_1 における C の接線の方程式は $y-1 = \frac{1}{2}(x-1)$ すなわち $y = \frac{1}{2}x + \frac{1}{2}$
 よって $P_2(0, \frac{1}{2})$
 $\sqrt{x} = \frac{1}{2}$ とすると、 $x = (\frac{1}{2})^2 = \frac{1}{4}$ であるから $T_2(\frac{1}{4}, \frac{1}{2})$
 また、 T_2 における C の接線の方程式も同様にして $y = x + \frac{1}{4}$
 よって $P_3(0, \frac{1}{4})$ ゆえに $T_3(\frac{1}{16}, \frac{1}{4})$

(2) $P_n(0, a_n)$ とする。
 $\sqrt{x} = a_n$ とすると、 $x = a_n^2$ であるから $T_n(a_n^2, a_n)$
 また $a_n > 0$

T_n における C の接線の方程式は
 $y - a_n = \frac{1}{2\sqrt{a_n^2}}(x - a_n^2)$
 すなわち $y = \frac{1}{2a_n}x + \frac{1}{2}a_n$
 よって $P_{n+1}(0, \frac{1}{2}a_n)$
 ゆえに $a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n \dots\dots ①$



数列 $\{a_n\}$ は初項 $a_1 = 1$ 、公比 $\frac{1}{2}$ の等比数列であるから

$$a_n = 1 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} = \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} \dots\dots ②$$

したがって $P_n(0, (\frac{1}{2})^{n-1})$, $T_n((\frac{1}{4})^{n-1}, (\frac{1}{2})^{n-1})$

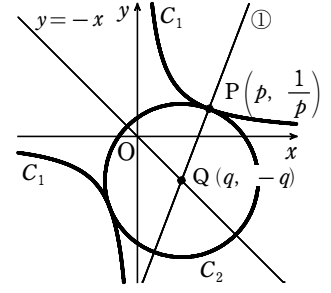
(3) ①, ② から $S_n = \frac{1}{2}a_n^2(a_n - a_{n+1}) = \frac{1}{2}a_n^2 \cdot \frac{1}{2}a_n = \frac{1}{4}\left(\frac{1}{8}\right)^{n-1}$

よって、 $\sum_{n=1}^{\infty} S_n$ は初項 $\frac{1}{4}$ 、公比 $\frac{1}{8}$ の無限等比級数であり、 $|\frac{1}{8}| < 1$ であるから

$$\sum_{n=1}^{\infty} S_n = \frac{\frac{1}{4}}{1 - \frac{1}{8}} = \frac{2}{7}$$

③ (1) $y' = -\frac{1}{x^2}$ であるから、点 P における C_1 の法線の方程式は $y - \frac{1}{p} = p^2(x - p)$
 すなわち $y = p^2x - p^3 + \frac{1}{p} \dots\dots ①$

(2) $C_2: (x-q)^2 + (y+q)^2 = r^2 \dots\dots ②$ とする。
 C_1, C_2 はともに直線 $y = -x$ に関して対称であるから、 C_1, C_2 の共有点が2個になるのは、 C_1, C_2 が接するときである。



このとき、接点を $P(p, \frac{1}{p})$ とすると、 P における C_1 の法線は円 C_2 の法線でもあるから、直線 ① 上に点 Q がある。

よって $-q = p^2q - p^3 + \frac{1}{p}$

ゆえに $q = \frac{p^3 - \frac{1}{p}}{p^2 + 1} = \frac{p^4 - 1}{p(p^2 + 1)} = \frac{(p^2 + 1)(p^2 - 1)}{p(p^2 + 1)} = p - \frac{1}{p}$

$r = PQ$ であるから

$$\begin{aligned} r^2 = PQ^2 &= (p-q)^2 + \left(\frac{1}{p} + q\right)^2 = \left\{p - \left(p - \frac{1}{p}\right)\right\}^2 + \left\{\frac{1}{p} + \left(p - \frac{1}{p}\right)\right\}^2 \\ &= \frac{1}{p^2} + p^2 = \left(p - \frac{1}{p}\right)^2 + 2 = q^2 + 2 \end{aligned}$$

$r > 0$ であるから $r = \sqrt{q^2 + 2}$

接線と法線～不等式への応用までの答え

4 $f'(x) = -e^x + (3-x)e^x = (2-x)e^x$
 $f''(x) = -e^x + (2-x)e^x = (1-x)e^x$

よって、 $f(x)$ の増減表は右のようになる。
 したがって、 $f(x)$ は $x=2$ で極大値 e^2 をとり、
 変曲点の座標は $(1, 2e)$ である。

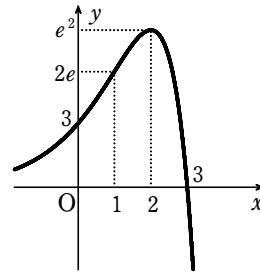
また $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = -\infty$

$t = -x$ とおくと

$$\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = \lim_{t \rightarrow \infty} \frac{3+t}{e^t} = 0$$

よって、 x 軸が漸近線である。
 したがって、 $y=f(x)$ のグラフの概形は右の図の
 ようになる。

x	...	1	...	2	...
$f'(x)$	+	+	+	0	-
$f''(x)$	+	0	-	-	-
$f(x)$	↗	$2e$	↖	e^2	↘



5 $f'(x) = \frac{(2ax+b)(x^2+2) - 2x(ax^2+bx+c)}{(x^2+2)^2} = \frac{-bx^2+(4a-2c)x+2b}{(x^2+2)^2}$

$f(x)$ は $x=-2, x=1$ で微分可能であるから、 $f'(-2)=0, f(-2)=\frac{1}{2}, f'(1)=0,$

$f(1)=2$ であることが必要である。

すなわち $f'(-2) = \frac{-4b-8a+4c+2b}{36} = \frac{-8a-2b+4c}{36} = 0$

$$f'(1) = \frac{-b+4a-2c+2b}{9} = \frac{4a+b-2c}{9} = 0$$

よって $4a+b-2c=0$ …… ①

$f(-2) = \frac{4a-2b+c}{6} = \frac{1}{2}$ から $4a-2b+c=3$ …… ②

$f(1) = \frac{a+b+c}{3} = 2$ から $a+b+c=6$ …… ③

①, ②, ③ から $a=1, b=2, c=3$

逆に、このとき $f(x) = \frac{x^2+2x+3}{x^2+2},$

$$f'(x) = \frac{-2x^2-2x+4}{(x^2+2)^2} = \frac{-2(x+2)(x-1)}{(x^2+2)^2}$$

$f(x)$ の増減表は右のようになり、条件を満たす。

以上から $a=1, b=2, c=3$

x	...	-2	...	1	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	↘	$\frac{1}{2}$	↗	2	↘

6 (1) $f(x) = e^{-x} \left(\sin x \cos \frac{\pi}{4} - \cos x \sin \frac{\pi}{4} \right) = \frac{1}{\sqrt{2}} e^{-x} (\sin x - \cos x)$

よって $f'(x) = \frac{1}{\sqrt{2}} (-e^{-x})(\sin x - \cos x) + \frac{1}{\sqrt{2}} e^{-x} (\cos x + \sin x)$
 $= \frac{1}{\sqrt{2}} e^{-x} \cdot 2 \cos x = \sqrt{2} e^{-x} \cos x$

別解 $f'(x) = (-e^{-x}) \cdot \sin \left(x - \frac{\pi}{4} \right) + e^{-x} \cdot \cos \left(x - \frac{\pi}{4} \right)$
 $= e^{-x} \left\{ -\sin \left(x - \frac{\pi}{4} \right) + \cos \left(x - \frac{\pi}{4} \right) \right\}$
 $= \sqrt{2} e^{-x} \sin \left\{ \left(x - \frac{\pi}{4} \right) + \frac{3}{4} \pi \right\} = \sqrt{2} e^{-x} \sin \left(x + \frac{\pi}{2} \right)$

よって $f'(x) = \sqrt{2} e^{-x} \cos x$

(2) (1) より、 $f'(x)=0$ のとき $\cos x = 0$

$2(k-1)\pi < x < (2k-1)\pi$ のとき、これを満たすのは $x = 2(k-1)\pi + \frac{\pi}{2} = \left(2k - \frac{3}{2} \right) \pi$

$2(k-1)$ は偶数、 $2k-1$ は奇数であることに注意すると、 $f(x)$ の増減表は次のようになる。

x	$2(k-1)\pi$...	$\left(2k - \frac{3}{2} \right) \pi$...	$(2k-1)\pi$
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		↗	極大	↘	

したがって、 $f(x)$ は $x = \left(2k - \frac{3}{2} \right) \pi$ で、極大値 $\frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(2k-\frac{3}{2})\pi}$ をとる。

(3) (1) より、 $f'(x)=0$ のとき $\cos x = 0$

$(2k-1)\pi < x < 2k\pi$ のとき、これを満たすのは $x = (2k-1)\pi + \frac{\pi}{2} = \left(2k - \frac{1}{2} \right) \pi$

$2k-1$ が奇数、 $2k$ が偶数であることに注意すると、 $f(x)$ の増減表は次のようになる。

x	$(2k-1)\pi$...	$\left(2k - \frac{1}{2} \right) \pi$...	$2k\pi$
$f'(x)$		-	0	+	
$f(x)$		↘	極小	↗	

したがって、 $f(x)$ は $x = \left(2k - \frac{1}{2} \right) \pi$ で、極小値 $-\frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(2k-\frac{1}{2})\pi}$ をとる。

(4) [1] $n=2k-1$ のとき

(2) より、 $2(k-1)\pi < x < (2k-1)\pi$ の範囲における関数 $f(x)$ の極値は

$$\frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(2k-\frac{3}{2})\pi}$$

$2k=n+1$ より $a_n = \frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(n-\frac{1}{2})\pi} = \frac{e^{\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} e^{-n\pi}$

[2] $n=2k$ のとき

(3) より、 $(2k-1)\pi < x < 2k\pi$ の範囲における関数 $f(x)$ の極値は $-\frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(2k-\frac{1}{2})\pi}$

$$n=2k \text{ より } a_n = -\frac{1}{\sqrt{2}} e^{-(n-\frac{1}{2})\pi} = -\frac{e^{\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} e^{-n\pi}$$

[1], [2] より

$$a_n = (-1)^{n-1} \frac{e^{\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} e^{-n\pi} = (-1)^{n-1} \frac{e^{\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} e^{-\pi(n-1)} \cdot e^{-\pi} = \frac{e^{-\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} (-e^{-\pi})^{n-1}$$

したがって $\sum_{n=1}^{\infty} a_n = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^{-\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} (-e^{-\pi})^{n-1}$

$-1 < -e^{-\pi} < 0$ であるからこの無限等比級数は収束し、その和は

$$\frac{e^{-\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}} \cdot \frac{1}{1 - (-e^{-\pi})} = \frac{e^{-\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}(1+e^{-\pi})} = \frac{e^{\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}(e^{\pi}+1)}$$

7 $f(x) = x^2\sqrt{9-x^2}$ ($-3 \leq x \leq 3$) であるから、 $-3 < x < 3$ において

$$f'(x) = 2x\sqrt{9-x^2} + x^2 \cdot \frac{-2x}{2\sqrt{9-x^2}} = \frac{2x(9-x^2) - x^3}{\sqrt{9-x^2}}$$

$$= \frac{18x - 3x^3}{\sqrt{9-x^2}} = -\frac{3x(x^2-6)}{\sqrt{9-x^2}} = -\frac{3x(x+\sqrt{6})(x-\sqrt{6})}{\sqrt{9-x^2}}$$

$-3 < x < 3$ で $f'(x) = 0$ とすると $x = 0, \pm\sqrt{6}$

よって、 $-3 \leq x \leq 3$ における $f(x)$ の増減表は次のようになる。

x	-3	...	$-\sqrt{6}$...	0	...	$\sqrt{6}$...	3
$f'(x)$	/	+	0	-	0	+	0	-	/
$f(x)$	0	↗	極大	↘	極小	↗	極大	↘	0

ここで $f(\sqrt{6}) = f(-\sqrt{6}) = 6\sqrt{3}$, $f(0) = 0$

したがって、 $f(x)$ は $x = \pm\sqrt{6}$ で最大値 $6\sqrt{3}$ をとり、
 $x = -3, 0, 3$ で最小値 0 をとる。

8 (1) $f(\theta + 2\pi) = \frac{1}{2} \sin 2(\theta + 2\pi) + \sin(\theta + 2\pi) = \frac{1}{2} \sin(2\theta + 4\pi) + \sin \theta$
 $= \frac{1}{2} \sin 2\theta + \sin \theta = f(\theta)$

よって、 $f(\theta)$ は 2π を周期とする周期関数である。
ゆえに、 $0 \leq \theta \leq 2\pi$ の範囲の増減を考えればよい。

$$f'(\theta) = \cos 2\theta + \cos \theta = (2\cos^2 \theta - 1) + \cos \theta$$

$$= 2\cos^2 \theta + \cos \theta - 1 = (\cos \theta + 1)(2\cos \theta - 1)$$

$f'(\theta) = 0$ とすると $\cos \theta = -1, \frac{1}{2}$

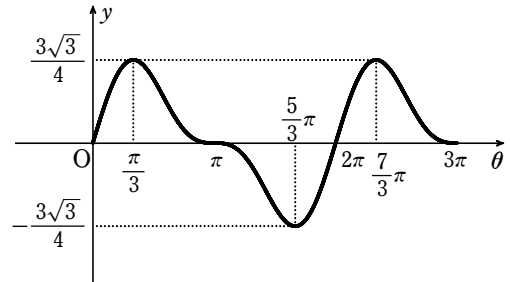
$0 \leq \theta \leq 2\pi$ の範囲でこれを解くと $\theta = \frac{\pi}{3}, \pi, \frac{5}{3}\pi$

$0 \leq \theta \leq 2\pi$ における $f(\theta)$ の増減表は次のようになる。

θ	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	π	...	$\frac{5}{3}\pi$...	2π
$f'(\theta)$		+	0	-	0	-	0	+	
$f(\theta)$	0	↗	$\frac{3\sqrt{3}}{4}$	↘	0	↘	$-\frac{3\sqrt{3}}{4}$	↗	0

$y = f(\theta)$ ($2\pi \leq \theta \leq 3\pi$) のグラフは、 $y = f(\theta)$ ($0 \leq \theta \leq \pi$) のグラフを θ 軸方向に 2π だけ平行移動したものである。

したがって、 $y = f(\theta)$ のグラフを $0 \leq \theta \leq 3\pi$ の範囲でかくと、次の図のようになる。

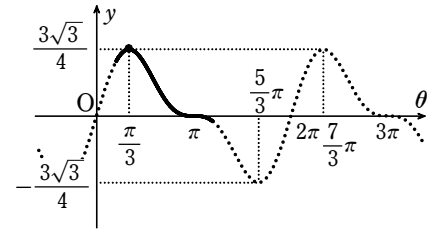


(2) [1] $0 \leq x \leq \frac{\pi}{3}$ のとき

$x \leq \theta \leq x + \pi$ における $y = f(\theta)$ のグラフは右の図の実線部分のようになる。

よって

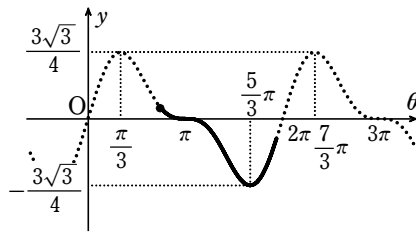
$$g(x) = f\left(\frac{\pi}{3}\right) = \frac{3\sqrt{3}}{4}$$



[2] $\frac{\pi}{3} < x \leq \pi$ のとき

$x + \pi \leq 2\pi$ であるから、
 $x \leq \theta \leq x + \pi$ における $y = f(\theta)$ の
 グラフは右の図の実線部分のよう
 になる。
 よって

$$g(x) = f(x) = \frac{1}{2} \sin 2x + \sin x$$



[3] $\pi < x$ かつ $x + \pi \leq \frac{7}{3}\pi$ すなわ

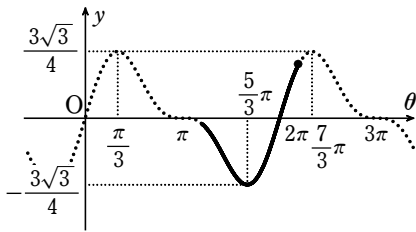
ち $\pi < x \leq \frac{4}{3}\pi$ のとき

$x \leq \theta \leq x + \pi$ における $y = f(\theta)$ の
 グラフは右の図の実線部分のよう
 になる。

よって $g(x) = f(x + \pi)$

$$= \frac{1}{2} \sin 2(x + \pi) + \sin(x + \pi)$$

$$= \frac{1}{2} \sin(2x + 2\pi) - \sin x = \frac{1}{2} \sin 2x - \sin x$$

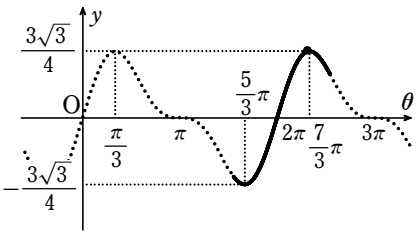


[4] $\frac{4}{3}\pi < x \leq 2\pi$ のとき

$\frac{7}{3}\pi < x + \pi$ であるから、

$x \leq \theta \leq x + \pi$ における $y = f(\theta)$ の
 グラフは右の図の実線部分のよう
 になる。

よって $g(x) = f\left(\frac{7}{3}\pi\right) = \frac{3\sqrt{3}}{4}$



以上から、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{3}$ のとき $g(x) = \frac{3\sqrt{3}}{4}$

$$\frac{\pi}{3} < x \leq \pi \text{ のとき } g(x) = \frac{1}{2} \sin 2x + \sin x$$

$$\pi < x \leq \frac{4}{3}\pi \text{ のとき } g(x) = \frac{1}{2} \sin 2x - \sin x$$

$$\frac{4}{3}\pi < x \leq 2\pi \text{ のとき } g(x) = \frac{3\sqrt{3}}{4}$$

9 AQ = t (0 ≤ t ≤ 1) とおく。

△APQ において、余弦定理から

$$PQ^2 = AP^2 + AQ^2 - 2AP \cdot AQ \cos \angle PAQ$$

$$= \left(\frac{1}{2}\right)^2 + t^2 - 2 \cdot \frac{1}{2} \cdot t \cos \frac{\pi}{3} = t^2 - \frac{t}{2} + \frac{1}{4}$$

PQ > 0 であるから $PQ = \sqrt{t^2 - \frac{t}{2} + \frac{1}{4}}$

△AQD において、余弦定理から

$$QD^2 = AD^2 + AQ^2 - 2AD \cdot AQ \cos \angle DAQ$$

$$= 1^2 + t^2 - 2 \cdot 1 \cdot t \cos \frac{\pi}{3} = t^2 - t + 1$$

QD > 0 であるから $QD = \sqrt{t^2 - t + 1}$

△ABD は正三角形であり、点 P は辺 AB の中点であるから

$$PD = AD \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

よって、△PQD において、余弦定理から

$$\cos \angle PDQ = \frac{PD^2 + QD^2 - PQ^2}{2PD \cdot QD} = \frac{\frac{3}{4} + (t^2 - t + 1) - \left(t^2 - \frac{1}{2}t + \frac{1}{4}\right)}{\sqrt{3} \sqrt{t^2 - t + 1}}$$

$$= \frac{1}{2\sqrt{3}} \cdot \frac{3-t}{\sqrt{t^2 - t + 1}}$$

ここで、 $f(t) = \frac{(3-t)^2}{t^2 - t + 1}$ とおくと

$$f'(t) = \frac{-2(3-t)(t^2 - t + 1) - (3-t)^2(2t-1)}{(t^2 - t + 1)^2}$$

$$= \frac{(t-3)\{2(t^2 - t + 1) - (t-3)(2t-1)\}}{(t^2 - t + 1)^2} = \frac{(t-3)(5t-1)}{(t^2 - t + 1)^2}$$

$0 \leq t \leq 1$ の範囲において、 $f'(t) = 0$ とすると $t = \frac{1}{5}$

よって、 $0 \leq t \leq 1$ における $f(t)$ の増減表は右の
 ようになる。

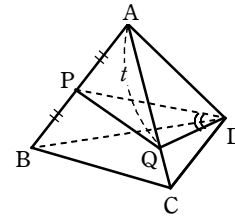
$$f\left(\frac{1}{5}\right) = \frac{\left(\frac{14}{5}\right)^2}{\frac{1}{25} - \frac{1}{5} + 1} = \frac{196}{21} = \frac{28}{3}$$

であるから、

$f(t)$ は $t = \frac{1}{5}$ のとき最大値 $\frac{28}{3}$ をとる。

$0 \leq t \leq 1$ より $\cos \angle PDQ > 0$ であるから、 $f(t)$ が最大となると $\cos \angle PDQ$ も最大となる。

その最大値は $\frac{1}{2\sqrt{3}} \sqrt{\frac{28}{3}} = \frac{\sqrt{7}}{3}$



10 $f(x) = \log x - \frac{1}{x}$ とおくと、 $f(x)$ は $x > 0$ において連続かつ微分可能であり

$$f'(x) = \frac{1}{x} + \frac{1}{x^2} = \frac{x+1}{x^2}$$

よって、 $x > 0$ のとき、 $f'(x) > 0$ であるから、 $f(x)$ は単調に増加する。

ここで $f(1) = -1 < 0$

また、 $\log 2 > \frac{1}{2}$ から $f(2) = \log 2 - \frac{1}{2} > 0$

したがって、中間値の定理により、方程式 $f(x) = 0$ すなわち $\log x = \frac{1}{x}$ は、 $x > 0$ において、ただ1つの解をもつ。

t	0	...	$\frac{1}{5}$...	1
f'(t)		+	0	-	
f(t)		↗	極大	↘	

接線と法線～不等式への応用までの答え

11(1) $f'(x) = \frac{2(x^2+2)-(2x+1) \cdot 2x}{(x^2+2)^2} = \frac{-2x^2-2x+4}{(x^2+2)^2} = -\frac{2(x+2)(x-1)}{(x^2+2)^2}$

(2) $f'(x)=0$ とすると $x=-2, 1$
 $f(x)$ の増減表は右のようになる。
 よって、 $f(x)$ は
 $x=1$ のとき極大値 1,
 $x=-2$ のとき極小値 $-\frac{1}{2}$ をとる。

x	...	-2	...	1	...		
$f'(x)$		-	0	+	0	-	
$f(x)$			\searrow	$-\frac{1}{2}$	\nearrow	1	\searrow

(3) 方程式を変形すると $a(\sin^2 t + 2) = 2\sin t + 1$
 $\sin^2 t + 2 > 0$ から $a = \frac{2\sin t + 1}{\sin^2 t + 2}$
 $\sin t = x$ とおくと $a = \frac{2x+1}{x^2+2}$ ①

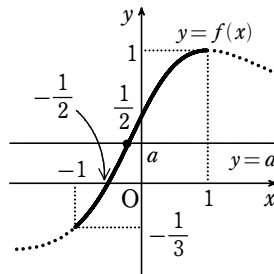
$-1 \leq \sin t \leq 1$ であるから、 x の方程式 ① が $-1 \leq x \leq 1$ の範囲で実数解をもつような a の値の範囲を求めればよい。

すなわち、 $-1 \leq x \leq 1$ において、 $y=f(x)$ のグラフと直線 $y=a$ が共有点をもつような a の値の範囲を求めればよい。

(2) から、 $-1 \leq x \leq 1$ における $y=f(x)$ のグラフは右の図のようになる。

よって、求める a の値の範囲は

$$-\frac{1}{3} \leq a \leq 1$$



12(1) $f(x) = \frac{(x-1)^2}{x^3}$ から $f'(x) = \frac{2(x-1) \cdot x^3 - (x-1)^2 \cdot 3x^2}{x^6} = \frac{-(x-1)(x-3)}{x^4}$

$x > 0$ における $f(x)$ の増減表は次のようになる。
 したがって、

x	0	...	1	...	3	...		
$f'(x)$			-	0	+	0	-	
$f(x)$				\searrow	極小 0	\nearrow	極大 $\frac{4}{27}$	\searrow

$f(x)$ は $x=3$ で極大値 $\frac{4}{27}$ をとり、
 $x=1$ で極小値 0 をとる。

(2) 曲線 $y=f(x)$ ($x > 0$) 上の点 $(t, f(t))$ における接線の方程式は

$$y - \frac{(t-1)^2}{t^3} = \frac{-(t-1)(t-3)}{t^4}(x-t)$$

すなわち $y = -\frac{(t-1)(t-3)}{t^4}x + \frac{2(t^2-3t+2)}{t^3}$

これが点 $P(0, p)$ を通るとき $p = \frac{2(t^2-3t+2)}{t^3}$

ここで、 $g(t) = \frac{2(t^2-3t+2)}{t^3}$ とすると

$$g'(t) = \frac{2(2t-3) \cdot t^3 - 2(t^2-3t+2) \cdot 3t^2}{t^6} = \frac{-2(t^2-6t+6)}{t^4}$$

$g'(t)=0$ とすると $t=3 \pm \sqrt{3}$

$t > 0$ における $g(t)$ の増減表は右のようになる。

t	0	...	$3-\sqrt{3}$...	$3+\sqrt{3}$...	
$g'(t)$			-	0	+	0	-
$g(t)$			\searrow	極小	\nearrow	極大	\searrow

ここで、 $g(t)$ の分母 t^3 を

t^2-6t+6 で割ったときの商は

$t+6$, 余りは $30t-36$ である。

また、 $g(t)$ の分子 $2t^2-6t+4$ を t^2-6t+6 で割ったときの商は 2, 余りは $6t-8$ である。

よって $g(t) = \frac{(t^2-6t+6) \cdot 2 + 6t-8}{(t^2-6t+6)(t+6) + 30t-36}$

ゆえに $g(3 \pm \sqrt{3}) = \frac{0 + 6(3 \pm \sqrt{3}) - 8}{0 + 30(3 \pm \sqrt{3}) - 36} = \frac{2(5 \pm 3\sqrt{3})}{6(9 \pm 5\sqrt{3})}$
 $= \frac{(5 \pm 3\sqrt{3})(9 \mp 5\sqrt{3})}{3 \cdot 6} = \frac{\pm 2\sqrt{3}}{18} = \pm \frac{\sqrt{3}}{9}$ (すべて複号同順)

また $\lim_{t \rightarrow +0} g(t) = \infty$, $\lim_{t \rightarrow \infty} g(t) = \lim_{t \rightarrow \infty} 2\left(\frac{1}{t} - \frac{3}{t^2} + \frac{2}{t^3}\right) = 0$

よって、 $y=g(t)$ のグラフは、右の図のようになる。

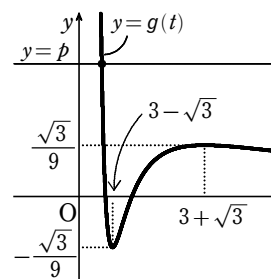
$p=g(t)$ を満たす正の実数 t の個数が、接線の本数と一致するから、求める接線の本数は

$p < -\frac{\sqrt{3}}{9}$ のとき 0本

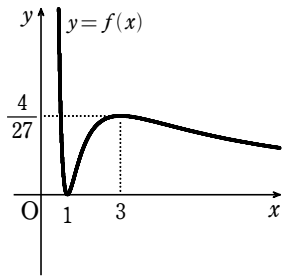
$p = -\frac{\sqrt{3}}{9}$, $\frac{\sqrt{3}}{9} < p$ のとき 1本

$-\frac{\sqrt{3}}{9} < p \leq 0$, $p = \frac{\sqrt{3}}{9}$ のとき 2本

$0 < p < \frac{\sqrt{3}}{9}$ のとき 3本



参考) 曲線 $y=f(x)$ ($x > 0$) の概形は、右の図のようになり、曲線 $y=f(x)$ と異なる 2 点で接する直線は存在しない。
 したがって、 $p=g(t)$ を満たす正の実数 t の個数が、接線の本数と一致する。



接線と法線～不等式への応用までの答え

13 $f(x) = x^3e^{-x} - 27e^{-3}$ とおくと $f'(x) = 3x^2e^{-x} + x^3(-e^{-x}) = x^2(3-x)e^{-x}$
 $x \geq 3$ のとき $f'(x) \leq 0$ であるから、 $f(x)$ は $x \geq 3$ で単調に減少する。
 また $f(3) = 27e^{-3} - 27e^{-3} = 0$
 よって、 $x \geq 3$ のとき $f(x) \leq f(3) = 0$
 したがって $x^3e^{-x} \leq 27e^{-3}$
 ゆえに、 $x \geq 3$ のとき $0 < x^2e^{-x} \leq \frac{27e^{-3}}{x}$
 $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{27e^{-3}}{x} = 0$ であるから、はさみうちの原理により $\lim_{x \rightarrow \infty} x^2e^{-x} = 0$

14 (1) $f'(x) = \frac{\frac{1}{x} \cdot x - (\log x) \cdot 1}{x^2} = \frac{1 - \log x}{x^2}$
 $f'(x) = 0$ とすると $\log x = 1$ よって $x = e$
 $x > 0$ における $f(x)$ の増減表は右のようになる。
 ゆえに、 $f(x)$ は $x = e$ で最大値 $\frac{1}{e}$ をとる。
 (2) 自然数 n が $n^{n+1} < (n+1)^n$ …… ① を満たすとき、
 両辺の自然対数をとると
 $(n+1)\log n < n\log(n+1)$

x	0	…	e	…
$f'(x)$	/	+	0	-
$f(x)$	/	↗	$\frac{1}{e}$	↘

両辺を $n(n+1) (> 0)$ で割ると $\frac{\log n}{n} < \frac{\log(n+1)}{n+1}$ …… ②
 すなわち、① は $f(n) < f(n+1)$ と同値である。
 (1) の増減表から、 $f(x)$ は $0 < x < e$ で増加し、 $x > e$ で減少する。
 よって、 $n > e$ のとき、不等式 ② は成り立たない。
 したがって、 $0 < n \leq e$ であることが必要である。
 n は自然数であり、 $e = 2.7\cdots$ であるから $n = 1, 2$
 [1] $n = 1$ のとき
 (① の左辺) $= 1^2 = 1$, (① の右辺) $= 2^1 = 2$
 よって、不等式 ① は成り立つ。
 [2] $n = 2$ のとき
 (① の左辺) $= 2^3 = 8$, (① の右辺) $= 3^2 = 9$
 よって、不等式 ① は成り立つ。
 [1], [2] から、求める自然数 n は $n = 1, 2$

【参考】 [1] は、次のように考えてもよい。
 $n = 1$ のとき、 $n + 1 = 2$ であり $0 < n < n + 1 < e$
 $f(x)$ は $0 < x < e$ において増加するから $f(n) < f(n + 1)$
 よって、② すなわち ① が成り立つ。
 なお、[2] の $n = 2$ のときは、 $0 < n < e < n + 1$ であるから、この方法は使えない。
 解答のように、 $n = 2$ を代入して調べるのがよい。

15 $x = 0$ のとき、与えられた不等式はすべての実数 a について成り立つ。
 $x \neq 0$ とする。
 $\cos x \leq 1 - ax^2$ から $a \leq \frac{1 - \cos x}{x^2}$

$f(x) = \frac{1 - \cos x}{x^2}$ とおく。
 $f(x)$ は偶関数であるから、 $0 < x \leq \frac{\pi}{2}$ における $f(x)$ の増減を考える。
 $f'(x) = \frac{x^2 \sin x - 2x(1 - \cos x)}{x^4} = \frac{x \sin x + 2 \cos x - 2}{x^3}$

$g(x) = x \sin x + 2 \cos x - 2$ とおくと
 $g'(x) = \sin x + x \cos x - 2 \sin x = -\sin x + x \cos x$
 $g''(x) = -\cos x + \cos x - x \sin x = -x \sin x$
 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき $g''(x) \leq 0$

よって、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において $g'(x)$ は単調に減少する。
 また、 $g'(0) = 0$ であるから $g'(x) \leq 0$
 ゆえに、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において $g(x)$ は単調に減少する。
 また、 $g(0) = 0$ であるから $g(x) \leq 0$
 したがって、 $0 < x \leq \frac{\pi}{2}$ において $f'(x) < 0$ であるから、 $f(x)$ は単調に減少する。

よって、 $0 < x \leq \frac{\pi}{2}$ における $f(x)$ の増減表は右のようになる。

x	0	…	$\frac{\pi}{2}$
$f'(x)$	/	-	
$f(x)$	/	↘	

$f(x) = \frac{1 - \cos x}{x^2} = \frac{\sin^2 x}{x^2} \cdot \frac{1}{1 + \cos x}$
 であるから $\lim_{x \rightarrow 0} f(x) = \frac{1}{2}$

また $f\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{4}{\pi^2}$
 ゆえに、 $-\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{\pi}{2}$, $x \neq 0$ における $y = f(x)$ のグラフは右の図のようになる。
 定義域内のすべての x に対して $a \leq f(x)$ が成り立つ
 ような a の最大値は $a = \frac{4}{\pi^2}$
 したがって、 $-\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において $\cos x \leq 1 - ax^2$
 が成り立つような a の最大値は $a = \frac{4}{\pi^2}$

